

令和3年度 上尾市水道事業実動班 活動報告

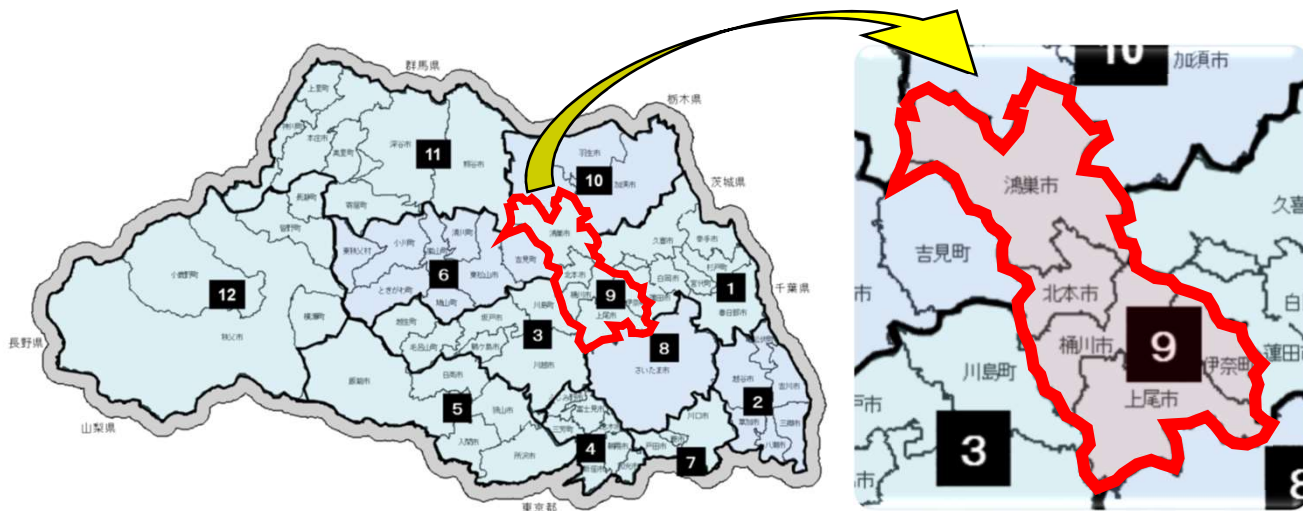
上尾市水道事業では、日常起こり得る「事故」「災害」への対処訓練を行う目的で「実動班」を令和2年3月に編成いたしました。

「実動班」では、日常訓練により培われた技術が、来たる大規模災害への対応に繋がると確信し、各種の講習会や実技訓練を積み重ねております。また、これらの訓練を継続することで、迅速な災害対応ができる職員の育成と水道技術の継承が成されるものと考えます。

近隣水道事業体 技術研究会を開催しました

令和3年11月4日(木) 上尾市上下水道部庁舎におきまして、第1回 近隣水道事業体技術研究会を開催いたしました。

本研究会は、埼玉県水道広域化実施検討部会の第9ブロックに位置付けられている5市町の4事業体「桶川北本水道企業団」「鴻巣市上下水道部」「伊奈町上下水道課」「上尾市上下水道部」によって形成されており、各事業体の現状や課題に対する意見交換を実施し、水道事業の将来像について検討しております。



《埼玉県水道広域化実施検討部会区割り図》

《第9ブロック》

今回は、4事業体から12名の参加があり、研究会実務を担当した上尾市上下水道部の職員を含め総勢30名での開催となりました。

開催テーマは、実動班活動報告Vol.1(※)でも紹介しました水道管の「漏水修繕訓練」として、「木栓の製作から打ち込み」までの実作業を中心に実施いたしました。

具体的には、漏水している水道管に、事前に製作していた木栓を直接打ち込み、応急的に止水する訓練となります。災害や事故時など、急を要する場合に有効な手段となります。

第1回 近隣水道事業体技術研究会

近隣水道事業体技術研究会



《上尾市上下水道部長より開会の挨拶》



《研究会の趣旨説明と木栓の基礎知識についての講義》

木栓の製作

会場を屋外に移し、各事業体の専用ブースにて木栓(※)の製作を行いました。

自らが打ち込む木栓を切り出しナイフ1本で削り出し、先端をφ20mmになるまで加工します。



(※)本訓練にて使用した木栓とは、市販の杉垂木(4.5cm×3.6cm)、長さ50cm程度の角材先端を、直径20mmに加工した漏水修繕用の木材のことを言います。



《講師の指導のもと木栓製作》



《上尾市職員が他事業体職員へ製作方法をレクチャー》

木栓の打ち込み①

各自が製作した木栓を、破損して漏水している水道管へ打ち込みました。



わずかφ20mmの漏水においても
10m以上吹き上がり水量も膨大です

《破損を想定した水道管の漏水状況》



《木栓の先端を漏水箇所へセット》



《体重を乗せて木栓の差し込み》



《セットハンマーにて木栓の打ち込み》
《上尾市上下水道部職員》

木栓の打ち込み②

研究会参加者全員が、自作の木栓を打ち込み、漏水修繕を経験しました。



《鴻巣市上下水道部職員》



《伊奈町上下水道課職員》



《桶川北本水道企業団職員》

講評・閉会



《講師から研究会の総括と講評》

今後も、各水道事業体間で連携を密にとり、
有事の際に相互協力を図れる体制を構築します



《各事業体からの研究会参加者と上尾市上下水道部事務局職員との集合写真》

※撮影のため一時的にマスクを外しています